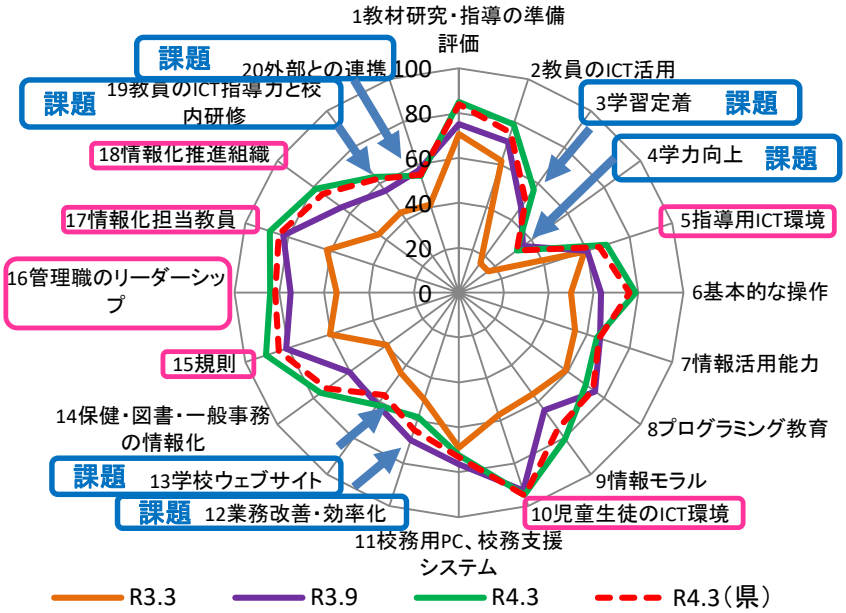
けいちく GIGA 通信

令和4年10月20日（木） NO.6 京築教育事務所教育指導室

1人1台端末が導入されて約1年、学校のあらゆる場でのICT活用が進んできました。今回の通信では、令和3年3月、9月、令和4年3月の「教育の情報化の推進に係る調査」の3回のデータから見えることについてお知らせします。

令和２年３月～令和４年３年までの教育の情報化の推進に係る成果と課題



左のグラフは、令和２年度３月から３回実施された「教育の情報化の推進に係る調査」（※レベル２以上）の推移です。

令和２年３月時点と比べて、京築教育事務所管内の各学校では、オンライン学習等に対応した**「児童生徒用のICT環境」の整備等のハード面の整備（項目5、10）**が迅速に進められてきたことがわかります。それとともに、**校内の推進体制も着実に整備（項目15～18）**されてきています。

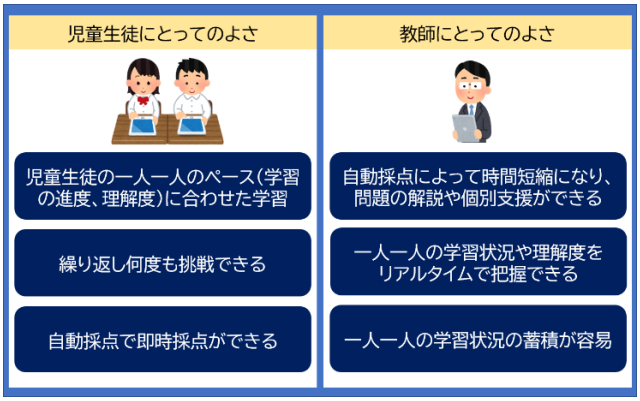
教科指導においては、教材研究・指導の準備や評価等や、教科等の日常的な指導等、**日常的な授業づくりへのICT活用（項目1、2）**が進んできています。

これからの課題として残っていることの一つに、**「学習の定着のためのICT活用」（項目3）**があります。調査によると、学習内容を定着させるための個別学習、繰り返し学習における児童生徒のICT活用が、一部の教科や学年での活用に留まり、学校全体の取組となっていないということがわかります。児童生徒の剥がれ落ちない学力の基盤をつくる取組を効率的に行うためにも、情報の収集、児童生徒の実態把握等の教育データの利活用を学校全体で取り組むことが大切です。

学習内容の定着のためにデジタルドリルを活用するよさとは？

デジタルドリルとは、PCやタブレット端末上で問題を出題・自動採点するドリルです。正答率や学習状況等のスタディ・ログを分析し、一人一人に応じた問題が出題される「AIドリル」と呼ばれるものもあります。

授業の中や家庭学習で児童生徒がドリルを行うことで、「取組回数」、「正答率」、「学習時間」等の学習履歴がリアルタイムに蓄積されていき、それを基に個別の支援へとつなげることができます。また、「いつでも」「どこでも」というICT活用の特徴を生かし、家庭学習とつないだ活用もできます。



例えば、このような活用ができます

○　学校に来ることができない児童生徒が家庭からドリルにアクセスできるようにすることで、学習内容の習熟を促すだけでなく、進捗を容易に確認することができます。授業へのオンライン参加と併せて、効果を上げることが期待されます。（大阪府箕面市の取組）

通信の充実・改善のため、右のQRコードからアンケートに御協力ください。情報教育に関するおすすめの取組等ありましたら、ぜひ御提供ください。